

平成26年度 自然観察会及び田んぼの学校の開催

特定非営利活動法人北海道田園生態系保全機構の平成26年度「自然観察会及び田んぼの学校」は、一般財団法人前田一歩園財団自然環境保全活動助成事業の支援を得て、地元新十津川町をはじめ札幌、釧路、苫小牧、室蘭、旭川、長沼の子供たちと大人が新十津川町幌加で一緒になり、田んぼと周辺の自然の中で生きものや植物の観察と農作業の体験を行っています。

春、5月24日の田植えは大変寒い日の中「今日は田んぼに入った方が暖かいよ」の案内で始まりました。田んぼは植えやすいようにとコロで田面に印を付け待っていました。曲がり真っ直ぐの田植えでしたが印は好評です。水が冷たいので田植えを嫌がる子。お母さんの教育的指導で挑戦する子。ストーブで暖を取りながらの田植えをしています。そして機械植えでは、その正確さと速さに圧倒されています。

いつもなら自然観察に移動するところ「これからサクラの木を植えに行くよ」と向かいの丘に案内します。「もっと深くして」「土を被せて」「水は多めにかけて」と飛びかう中の植樹です。ここは雪が多くて木が折れたりするため後日添え木をします。

笹舟を作って川に流して見ます。「笹舟ってなあーに」「どうやって作るの」熱心に聞いている子。先生がゆっくりと作りだすと、真似て作りだしますが苦戦している子、ようやく出来て川に流すも川岸につかまり動かない。どうするか考えている子。

ビオトープではサンショウウオのタマゴと対面。ビオトープで網を揚げてみる。「おじさん何かいるの」怖い物見たさで網に近づいて来ます。今日は魚が少ないね。ドジョウ、ヤゴ、ゲンゴロウが一匹いる。「見えない!」と抗議する女の子。朝捕っていたドジョウを水槽の中に。そこで触ったり、捕まえてみたり。普段捕まえられない事のないドジョウは相当疲れている様子。

秋9月27日の稲刈りは「初めての人おるかのう」の問いかけで始まりました。「今日は稲を刈るんで手を刈るんじゃないからな」「カマを持った手元をできるだけ下げて刈るように」「一列に並んで始めるよ」と言っているやさきから列は崩壊。「刈り取った稲は一カ所に置いて」「互い違いに置いてと云ったりするとメチャクチャになるからな」そして「足下を見て、倒れたり踏んづけたりしていないか」と。「ハサかけをするので刈った稲を持ってきて」バラバラの稲を運ぼうとする女の子。それを見ていたお母さん「待つて!束ねてあるやつからよ」と。他方、刈り取った稲の縛り方に挑戦している大人群。マスターできずやきもきしています。

手作業が終えると、コンバインに乗って刈り取りの違いを確認しています。3人ずつコンバインに乗りはじめました。乗るとおとなしくなり、真剣に機械を観察しています。

「ワッ、コオロギ」沢山いる。捕まえたら顔を見て。エンマコオロギといって日本一大きい種類。マユゲが白くつり上がってこわい顔していて、エンマ大王みたいなのでエンマコオロギと云っているよ。ほかにトノサマバッタや日本では北海道にしかいないハネナガキリギリス。羽が体よりとても長いキリギリスの仲間のウスイロササキリ等が姿を見せています。

ビオトープでは、フクドジョウ、ホトケドジョウ、ドジョウが網の中に。沢山いるこの虫はマツモムシ、同じ仲間のコミズムシ。これはコオイムシといいメスがオスの背中に子を産むという有名な虫。ミズスマシと同じ仲間のオオミズスマシが凄いいスピードでクルクル回っているけど、これは一生に一度見られるかという非常に珍しい虫。

ネコジャラシ1本だけギューツと抜いて。さっき向こうで稲刈りしたあの稲と同じ仲間です。よく見ると丸いのが付いている。これがこれのお米。そして草を絡ませ引っ張りあって相手の草を切る遊び。自分で草を取って他の人と競争してみるといい。

そこに生えているのはガマです。水気の多い所に生えています。これを折ってみる。これの一個一個がタネなんです。「タンポポよりすごい」と驚きの声。このブドウ、普通のブドウみたいになっています。食べてみると「すっぱい」。だけど普通のブドウだよ。

春秋を通して「余り外遊びが好きじゃないんだ男の子なのに」「今日は寒いので可哀相なんだけどでも喜んでやっている」「こういう経験ないの」「初めてだね」「楽しめてありがとう」「こういう時だけ元気がいいんだもの」とお母さん達。

講師の方は早朝から幌加に入り、環境の変化を確認しながら、子供達が動植物に触れ観察してもらうことを大切にしています。釧路、苫小牧、室蘭からは初参加、活動に元気をもらっています。